

(第1号様式)

プロジェクト登録申請書兼Jブルークレジット<sup>®</sup>認証申請書

ジャパンプルーエコノミー技術研究組合 御中

(代表申請者) 三和漁業協同組合 城ヶ島支所

住所：神奈川県三浦市三崎町城ヶ島500-28

氏名：支所長 石橋 英樹 印

法人番号：2021005008421

Jブルークレジット制度実施要領の規程に基づき、次のとおりプロジェクト登録兼クレジットの認証を申請します。

プロジェクト番号	新規申請
プロジェクト名称	～海の生態系を育む、神奈川ブルーカーボンプロジェクトin城ヶ島～

プロジェクト区分 (複数選択可)	自然基盤 吸収源の回復、維持、劣化抑制
プロジェクト情報	<p>神奈川県三浦市・城ヶ島周辺は、かつて豊かな藻場と多様な水産資源に恵まれ、地域漁業の基盤を支えてきました。しかし近年、気候変動による海水温上昇や、植食性魚類（アイゴ・イスズミ等）の食害、ウニ類（ガンガゼ等）の異常繁殖により磯焼けが急速に進行しました。特にワカメやカジメといった大型海藻群落の衰退が広範囲で進み、海の生物多様性や漁業資源の減少が深刻化しています。神奈川県水産技術センター等の調査でも、活動開始前には城ヶ島西側・南側でカジメ群落の大幅な減少が確認され、地域における藻場の危機が明らかになっていました。</p> <p>こうした状況を受け、2013年より、当時の城ヶ島漁業協同組合（現・三和漁業協同組合城ヶ島支所）を中心に藻場再生活動を開始しました。主な取組は、植食性魚類の駆除、ガンガゼなどのウニ除去、そして藻場の自然再生を促す環境整備です。近年は、環境適応力の高い「早熟カジメ」の設置にも着手し、胞子の拡散による群落再生を促進しています。これらの取組は2017年、全国漁業協同組合連合会主催「全国青年・女性漁業者交流大会」において、県内団体として初の農林水産大臣賞を受賞するなど全国的にも評価されています。</p> <p>活動は年間を通じて継続され、駆除や設置作業だけでなく、再生区域のモニタリングや成長調査も実施。加えて、小中高生や地域住民が参加する体験型イベントや環境学習会を開催し、藻場の重要性和保全活動への理解を広げています。活動の様子はInstagram等を通じて広く発信し、地域内外からの関心を高めています。これらにより、一部海域ではカジメ群落の回復が確認されるなど、成果が現れ始めています。</p> <p>今回は、再生した藻場のブルーカーボンを評価し、CO<sub>2</sub>吸収源の回復と拡大を主要な目的の一つとしています。これにより、藻場保全を資金面からも持続可能な仕組みへと発展させ、漁業・観光・環境保全が循環する地域モデルの構築を目指します。城ヶ島の豊かな海を次世代へ引き継ぐため、漁業者、研究機関、行政、市民団体が一体となり、藻場再生とブルーカーボン創出に継続的に取り組んでまいります。</p>
クレジット取得理由	当該地域での継続的な保全活動には、漁業者やダイバー等による人手の確保や機材・経費の捻出が必要となります。クレジット取得によって活動に対する資金的な裏付けが得られることで、地域関係者による自立的な取り組みの継続・拡大が可能となり、吸収源の回復・維持にとって不可欠な仕組みとなります。
クレジット取得後の計画や見通し	クレジット取得によって得られた対価は、引き続き漁協による食害生物の駆除活動や、藻場のモニタリング・保全活動に還元する計画です。また、将来的には囲い網を使用する等保全活動の実施エリアそのものを拡大することを視野に入れており、地域全体での吸収源の維持・増進につなげてまいります。
申請対象期間に実施した活動の概要	<p>三和漁業協同組合城ヶ島支所が実施した磯焼け対策活動の具体的な内容は次の通り</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・食害生物(ウニ)駆除 2024年11月12日、エリアA、1,713個 2024年11月13日、エリアA、1,910個 2025年5月11日、エリアB、784個</li> <li>・魚類駆除（通年実施） 2025年2月9日、エリアACD、アイゴ1尾/ブダイ28尾/ニザダイ25尾/タカノハダイ26尾 2025年2月10日、エリアACD、アイゴ20尾/ブダイ13kg/ニザダイ14kg/タカノハダイ10尾 2025年2月11日、エリアACD、アイゴ8尾/ブダイ1</li> </ul>
プロジェクト実施開始日	2013年～現在

項目1	①対象生態系面積の 算定方法	【生態系】海藻 【藻場】ワカメ場 【構成種】ワカメ
	②クレジット認証対象期間	2024年10月01日～2025年09月30日
	③対象とする面積	【面積】 11.19546(ha) 【面積の算定根拠】 【面積の算定根拠】 C02吸収量算定に関する資料.pdf 【面積の資料】 C02吸収量算定に関する資料.pdf
	④吸収係数	【単位面積あたりの吸収量】 4.2 【単位面積あたりの吸収量の算定根拠】 【単位面積あたりの吸収量算出根拠】 C02吸収量算定に関する資料.pdf 【単位面積あたりの吸収量の資料】 C02吸収量算定に関する資料.pdf

項目1	⑤吸収量算定方法	<p>【計算に利用した式】 式1</p> <p>【算定結果（吸収量）】 47.02(t-CO2)</p>
	⑥确实性の評価	<p>【対象生態系面積等の評価】 55%</p> <p>(面積：11.19546(ha)×評価：55%)</p> <p>【吸収係数の評価】 72%</p> <p>(吸収係数：4.2×評価：72%)</p>
	⑦調査時に使用した船舶の情報	<p>【船舶の種類】 船外機船 (11kW / 15PS 程度)</p> <p>【台数】 1隻</p> <p>【稼働時間】 4.00(h)</p> <p>【出力】 11.00(kW)</p> <p>【燃料の種類】 ガソリン</p> <p>【CO2排出量】 0.021(t-CO2)</p>

項目1	⑧ベースラインの設定方法 妥当性とその量	<p>【C02吸収量】 4.07286(t-C02)</p> <p>(入力値10.285×面積の評価：55%×吸収係数の評価：72%)</p> <p>【設定した根拠】 2014年当時の活動区及び対照区では目視で約20%の被度であったものの、2025年の対照区での被度が17.61%であり、自然変動の影響後の被度である17.61%をベースラインと設定する。(詳細はC02吸収量算定に関する資料参照)</p> <p>【資料】 C02吸収量算定に関する資料.pdf</p>
	⑨クレジット認証対象の 吸収量	14.526(t-C02)

項目2	①対象生態系面積の 算定方法	【生態系】海藻 【藻場】アラメ場 【構成種】カジメ
	②クレジット認証対象期間	2024年10月01日～2025年09月30日
	③対象とする面積	【面積】 11.419648(ha) 【面積の算定根拠】 【面積の算定根拠】 C02吸収量算定に関する資料.pdf 【面積の資料】 C02吸収量算定に関する資料.pdf
	④吸収係数	【単位面積あたりの吸収量】 4.2 【単位面積あたりの吸収量の算定根拠】 【単位面積あたりの吸収量算出根拠】 C02吸収量算定に関する資料.pdf 【単位面積あたりの吸収量の資料】 C02吸収量算定に関する資料.pdf

項目2	⑤吸収量算定方法	<p>【計算に利用した式】 式1</p> <p>【算定結果（吸収量）】 47.962(t-CO2)</p>
	⑥確実性の評価	<p>【対象生態系面積等の評価】 55%</p> <p>(面積：11.419648(ha)×評価：55%)</p> <p>【吸収係数の評価】 72%</p> <p>(吸収係数：4.2×評価：72%)</p>
	⑦調査時に使用した船舶の情報	<p>【船舶の種類】 船外機船 (11kW / 15PS 程度)</p> <p>【台数】 1隻</p> <p>【稼働時間】 3.50(h)</p> <p>【出力】 11.00(kW)</p> <p>【燃料の種類】 ガソリン</p> <p>【CO2排出量】 0.018(t-CO2)</p>

項目2	⑧ベースラインの設定方法 妥当性とその量	<p>【C02吸収量】 0(t-C02)</p> <p>(入力値0)</p> <p>【設定した根拠】 ベースラインとしては、平成25年度から水産多面的機能発揮対策事業を行っており、当事業開始時期には島全域(本件におけるプロジェクト実施区及び対照区)において今回の測定対象種は全滅しておりました。そのためベースラインは0として申請いたします。</p> <p>【資料】 C02吸収量算定に関する資料.pdf</p>
	⑨クレジット認証対象の 吸収量	18.975(t-C02)



合計のクレジット認証対象の吸収量	33.5 t
------------------	--------